

第1回美祢市総合計画審議会幹事会 議事録

日時：令和元年7月26日（金）13：00～14：50

会場：山口大学 応接室

	委員区分	団体名	氏名	出欠
1	会長	国立大学法人山口大学	田中 和広 <small>タナカ カズヒロ</small>	
2	副会長	美祢市議会	竹岡 昌治 <small>タケオカ マサハル</small>	
3	副会長	美祢市男女共同参画審議会	小林 法子 <small>コバヤシ ノリコ</small>	
4		美祢市社会福祉協議会	羽根 一孝 <small>ハネ カズタカ</small>	
5		一般社団法人 美祢青年会議所	内海 満夫 <small>ウチウミ ミツオ</small>	
6		一般社団法人 美祢市観光協会	水谷 雅哉 <small>ミズタニ マサヤ</small>	

1 開会

事務局 第1回目の幹事会にお集まりいただきありがとうございます。本日の幹事会の趣旨は8月5日の審議会開催にむけた、将来像、基本理念、16公民館でのとりまとめと反映についてご議論をお願いします。その他、貴重な意見を賜ればと思っている。

2 会長あいさつ

～田中会長ごあいさつ～

暑くなり、夏本番だと感じている。事前に各部会議事録を読ませていただき、すごく議論されていると感じた。審議会は意見がなかなか出なくてどうしようかと思っていたが、部会では熱心な議論がされていると感じた。それを踏まえた修正等がされていると思っている。今日はそれぞれの部会長も集まっておられるのでいろいろなご意見聞けると思う。感じたことは議事録を見て、個別の話と全体の話がぐじゃぐじゃになって出てきていて、そもそも論から個別のこれほど多岐に渡っていたので、最終的にはどちらの方向でどう進めて行くか決めていかないといけないということが理解できたので、今日いろいろ議論出来たらと思う。

3 議事

(1) 序論における「まとめ」の修正について

～事務局より報告～

会長 ようするに2番以下は全てが①持続可能性を高めるための具体的な方策という意味合いで良いか。

観光と産業振興、都市機能の集約と整備、まちづくりはやり方ですよね、あとは環境ジオパークなんかが入ってくる。

いかがですか。

これはそれぞれの部会からのご意見を、たぶん事務局も出られているので、吸い上げて課題としてまとめたということで良いか。

事務局 いえ、これは臨時3部会とは切り離して、あくまでも序論の中でまとめ上げたもの。

委員 序論の一番最後にこの課題の整理がきて、基本構想に流れていくということか。会長がおっしゃったように、項目とか優先順位が気になるようであれば無理に項目を太字にしなくても、課題整理の説明文という感じでもよいのでは。番号がつくことで優先順位が気になるのであれば、キーワードだけ下線や太字にするなど読みやすくなるのでは。

会長 誤解を招くんじゃないなくて、逆にこれをうちはやるんだという意味合いで強調された方が良いかと思った。何を一番重視するのかとすると、①の持続可能性が1番とするならそれでいいが、そうではないのなら誤解のないようにしたら良いのではないか。

事務局 意図はある。あくまでも①を行うためにまちづくりの施策として重要視していくことが2番以後になる。

会長 ならいろいろと書き方がある。これだとずらっと書いてあるので、引き続き項目の一つとして読んでしまう。これが課題の序論の序論、背景といったようなことを書かれているような気がした。

事務局 では、最初の持続可能性を最上位として、そのために以下観光からを1として振っていくような書きぶりを変えたい。

委員 都市機能の集約と整備ということで、本庁舎を中心とした中心市街地形成の計画は同時進行か。今からか。

事務局 同時進行である。

委員 ここに掲げてあるように、統計資料からしたら現時点で千人低かった、もっと先々ではさらに少なくなる。8千人くらいでは村と同じ。それを想定に入れて描いているのか。例えば、本庁舎がここに立ったならばと思って分庁舎を歩いてみたが、全部駐車場になってしまう。どういうまちをつくらうとされているのかが分からない。曾根、向原に向けて316号沿いに自然発生型でぽこぽこできている。用途地域は農振。あそこにやるとしたら農振を変えないといけない。都市計画として、どういう用途地域にするか。そのかわり市役所周りは駐車場にするなど。言葉はすごく良いが具体的にはわからない。社協も新しい庁舎になったらその後はどうするのか。みんな駐車場。そんなまちじゃしょうがない。土着の商店はない、借店舗しかない。人口減ったら店舗維持せず出ていく。そうすると何も無いまちになる。行政が誘導して計画的に配置を考えていかないといけない。その辺りはこの審議会と関係なく動いている。

事務局 45年先には8,500人になる推計が出ているが、人口ビジョンの目標の中で、8,500人を12,000人程度に抑え込もうとしている。しかし、この総合計画の計画期間は10年間であり、その計画期間から言えば人口が24,000人から15,000人程度になるものを軽減させるために、10年間のまちづくりの中でいち早く人口将来展望をゆるやかに抑え込めるように打ち出せたらと考えている。

委員 自治体の公会計がバランスシートになってきて、一般企業は現金がなくなっちはいけないが、どういう市民にサービスを提供できるかで固定資産になっている。今現在でも公共施設は市民一人当たり3倍ある。それを今度はどうするという計画はなく、さらに人口が減っていく。今後ランニングコストはかかって来るので、公共施設はどうしていくのかの課題はあるし、まちづくりそのものが、商店や人が留まるわけではないので、配置を考えていかないといけないし、同時進行しているのが我々に全く見えていないし、もう一つ、観光の方も、この10月から事業をして3月までに観光客などが増えればイ

ンセンティブ制度で予算が出てきた。ちょっと手順がおかしいのではないか。

事務局 同時進行についてももう少し丁寧にご説明させていただくと、いずれも待ったなしの課題なので、同時に進めていかざるを得ない。その際に総合計画が最上位計画であり、基盤となるので、この情報を各議論の中に落とし込んでいる。先ほどの中心市街地の方も、われわれが入って、総合計画で進んでいる議論を落とし込んでいる。

委員 言葉ではそうだが、実際には観光が10月から議論開始である。ここで観光を議論しても観光は動き始める。これが最上位計画とはいっても、もう動いている。中心市街地形成も同じ。見えないままに議論をしたって、わからないままに議論しなくてはいけない。そのあたりは手順としておかしいのではない。

会長 そのあたりはうまく情報共有しながらやっているのだろう。山口市の計画を作るときも、まちひとしごと計画があって、CCRCがあって、新山口駅北口の総合計画がみんな動いている。全体の計画の話の中で、どう入るのかなどはずっと話していた。情報共有はずっとしていたので、矛盾はないようにしていたが、これが最上位計画でと言われても、まわりが変わったら変わるのではないかという危惧はあった。最終的には特にみなさん異論、矛盾がないように着地はした。それは常に情報共有しつつ、一回決まったことは後で変えることはできないので、そこはちゃんと全員が情報共有するとともに、言うべきことは早く言うておいてほしい。片方が決まった後に動いても仕方ないので、そこは是非気を付けて、注意してほしい。

もうひとつ、25,000 で考えたまちづくりなのか、8,000 で考えたまちづくりなのか、基本的には何を前提としてやるのか。どうしたいのかちょっと見えづらい。8,000 人には8,000 人の規模のまちづくりがある。10年後でも結構変わるのではないか。

委員 私は結構変わると思う。今でも商業支持人口はとても低い。店舗を引き上げるときはバタバタと引き上げると思う。それで怖いなど言っている。

会長 これはたぶん結論がでないと思う。本当は市長にこう思うなど言ってもらえるのが分かりやすいと思う。ただ、総合計画の審議会なので、きょうこの幹事会で決めないといけないことを整理しながら進めたい。

事務局 今日の幹事会は8月5日に全体審議会と基本部会に分かれる。審議会で今日の将来像、基本理念についてご了解いただくということと、ワークショップの意見を報告させていただき、その中の意見反映の報告をさせていただくのが、審議会のメインになる。この序論のまとめは報告で、8月5日も同様の報告で終えさせていただきたいと思っている。それと人口の問題では8,500 人になるというところを人口ビジョンの改訂で目標を12,000 程度に抑え込むとするのだが、総合計画は10年間の計画で、その対応を早い段階からやることで人口減少を緩やかにしたい。この10年間で何に取り組めるのかとりまとめる総合計画だが、単純に言えば、1年500人、10年5,000人減ってしまうが、18,000人程度のまちになってしまうのをどう抑え込むのかを取組としてまとめたいと考えている。

委員 都市拠点と地域拠点という言葉が出てくるが、暮らしているみんなは地域拠点が充実してもらった方が住みやすくなる。棲み分けをどうするのか。協働のまちづくりについて、いま人生100年時代となっており、担い手として40代、50代は働き盛りで地域のリーダーとして活躍してもらうのは難しい。むしろ高齢化しているので上の世代にターゲット絞った方がよいのではないか。意識付けは大切だが、実際に動ける人は60代、70代ではないかと思っている。

事務局 都市拠点、地域拠点の言葉が多数出てくることについては、総合計画も10年間の計画であるが、もう一つ建設課がとりまとめている都市計画マスタープランというものが

ある。これが、都市拠点が現在の美祢駅前、市役所中心、地域拠点が秋芳の秋芳地域、美東の大田地域としている。この2拠点を中心に、あとは産業ゾーン、観光ゾーンの区分けをしている。公民館単位は生活拠点という位置付けとしている。子どもがたくさん生まれるまち、100人をきる出生数から元にもどしたいと考える時に、若者が求める利便性が高いまち。そのためのにぎわいの拠点が必要ですので、都市拠点、地域拠点を充実させてコンパクトにまとめて、交通ネットワーク等でのにぎわいのあるまちを維持していきたいので、多用している。協働のまちづくりというのは生活拠点において、今後集約機能が失われていく中で、赤郷地区をモデル地区として、公民館地域全体を一つの集落と考えて、みんなが自発的に協働によって自立した地域を守って機能していくようにしたいということ。40、50代については、捉えから様々あり、見直していきたいが、ワークショップをしても集まるのも60代以上が多い。ワークショップではなく、若い方が出てきて地域を積極的に考える必要があるという意味合いの総称として、40、50代の新たなリーダーと。60、70代の方が声が大きい、地域のリーダーとなっている、世代交代も含めて明記している。誤解が内容には見直していきたい。

委員 逆に若い人たちはそういう想いを持っているのか。

事務局 赤郷ではレッドボーイや女子会もある。大田には古民家美東という他団体だが、地域のワークショップをされている。それには若い方が集まる。綾木は鳳鳴山里会があって、イベントを中心に積極的な地区づくりをしている。真長田は真長田ベースという若者のグループがあって他団体とつながりたいねというお話はいただいている。秋芳では、社協の職員で多様な若者や起業をしたいという移住の方、地の方を集めてネットワークをつくりたいと活動を始めている。移住者がゲストハウスを作りするなど若い人の目が始めていることは期待ができている。

会長 それぞれの地域拠点や役割分担をきちんとしないと、おまかせでいいならそれはそれでいいと思う。その方が、責任をもって本気になってくれる。いま言われたのは地域の方が自発的にやっていて市は動いていないわけですね。それでいいならそれでいいと思う。権限も渡すけど予算も渡すという風にすれば、動き出すような気がする。もう一つは市内の人口動態みると、3つの拠点に人が集まってくる。減ってくるのは周辺なので、それを前提に考えないといけない。3つの拠点には他のエリアから移ってきている。他のエリアからは人がいなくなる前提で都市計画を考えないといけない。これは現実なので、受け入れるしかない。そこにも人を呼ぶんだというならばそれなりに都市計画を考えていかないといけないんだと思う。もうしょうがない。もう20年したらみなさん年齢が20あがるだけで、上の方がどんどんいなくなると、そうはいかない。思い切った発想を変えないとむづかしい。一様に人口が減るわけではない。課題の整理でSWOTをこうまとめたということで、とりあえずは、序論のまとめということによろしいですかね。

(2) 基本構想における「将来像」と「基本理念」の文言修正について

(3) 基本構想における基本目標の順について

～事務局説明～

委員 将来像の方で、最も重要なこととして、若者世代が定住し、結婚しやすい環境をつくることと書いてあるが、将来像からそれはちょっと考えづらい。最も重要なことと書かれ

ている部分が上にも反映されないと違うのではないか。

事務局 ここが重要だと記載しているが、若者世代が定住し、結婚しやすい環境をつくるという
ことで、どちらからといえばこれの解決策が基本理念につながっていくわけですが、
将来像はそのまちのあるべき結果像を描いている。

委員 そうであるならもうちょっと若者世代が定着、結婚しやすいという内容が将来像に入っ
ても良いのではないかと思う。

事務局 将来像を変えた方がよいのか。

委員 将来像を変えるというよりも、この将来像のキャッチコピーを見た時にもっとも重要な
ことがここに結びつかない。

事務局 最も重要なことと考えられるという表記がそぐわないということか。

委員 いや、おそらく若者、女性、地域が輝く内容と、誇れる郷土・秋吉台の表記がここまで
来てないのに最も重要なことと謳ってあるから、最も重要なことはもっと後半に来てし
かるべきなのではないか。

委員 そうであるなら、下を書いてもらいたいし、ここが最も重要なことと考えているのなら
将来像にも書かれていないとちぐはぐなのではないかと思う。
あとちょっと若者が就職したい仕事の創出っていうのは、就職したいというより美祢に
誇りを持てるようなことの方が、将来像としては良いのかなと思ったのだが。

事務局 これは市内及び近郊においてと書かれているところに関連するが、若者が必ずしも市
内で仕事に努めるというのはなかなか企業誘致も含めて難しい。いま交通のネットワー
クが充実しており、勤めは近郊でもよいのであくまでも美祢市に住んでもらいたいとい
う意味で書いている。

委員 でも、美祢市の目標だと思うので、近郊ではなく、美祢市にスポットを当てた方が良く
ないか。

事務局 美祢市に若者が就業したい仕事をつくることは大きなテーマだが、企業クラスとして
捉えると難しい状況がある。企業誘致等を踏まえると県央連携でネットワークを組んで
いるのも、県から人口を逃がさないように広域連携がある。あくまで美祢市に若者が住
んで、子どもが生まれる環境をつくりたいということで、にぎわいや教育環境の充実の
方を優先する。勤めは若者が美祢市で暮らすことの第一条件ではあるが、通勤環境さえ
整えればということで、それ以外にもしないといけないことがたくさんある。全て美祢
市でカバーするのは難しいのではないかという表記になっている。

会長 美祢市の総合計画なので、それはちょっと違うのでは。県央7市町にうまく利用され
ては困る。美祢市は美祢市のことをしたたかに考える必要がある。いまの状況を見て
いると利用されているような気もする。

これは将来像でどういうまちにしたいかを書くわけで、課題や方法論ではなく、夢をか
く場所なので、ちょっと内容が同じようなものが理念にも出てくるので、ここはあくま
で将来像なので、ごちゃごちゃ書く必要はなくて、こんなまちを目指します。若者・女
性・地域がかがやくまちなのであれば、どんなまちなのかを具体的に書く場所なのかと
感じた。人口15,000人くらい、子どもたちがたくさんいる、観光客がたくさんくる、な
どそういう夢を語るのではないか。長くいらぬ。将来像はそんな具体的に書くものじ
ゃない。

事務局 間に合えば、ここで誤解を与える市内及び近郊といった言葉は削除してストレートに
もっと分かりやすい表現で構築し直す。前回危機感が伝わらないというご意見があった
もので、危機感を踏まえて文章をつくってみた。

会長 将来像は夢を語るもので危機感はなくてもよい。将来、10年後の美祢市ってこうありた

いという言葉語るものでは。

委員 結局は人口ある程度減ってもどういうまちにするかとか、人口にこだわることなくどう
いうまちにするかのほうが大事だと思う。

人口 12,000 人にこだわるとすれば子どもが生まれさえすれば良いのか。

事務局 人口ピラミッドから考えると、課題のまとめとして、社会減少と自然現象の中で、自
然現象の出生数が 100 人切ったことと、社会減少の中心は 10 代後半から 20 代前半
の転出が主な原因。やはり若者に魅力あるまちを創ることが、社会減少と自然現象を抑
え込む。

委員 わかるが、全国どこの市町村も同じである。全国的に起きている問題の中で美祢市はど
うしたいというのが将来像ではないか。

会長 2つのことがある。人口減ってくる中での食い止める方策もいろいろある。でも美祢市
そのものの将来を考える場合、それは大きな要因であるが、すべてではない。美祢市を
どうするか。その結果として人口が増えれば良いという考え方もある。いろんな議論の
中でそういう意見が出ていたのをみた。それが目的になってはいけない。本来美祢市は
どんなまちにしたいのか、そうすれば人が集まってくる。人を集めるために何をするの
かを考えるものじゃないような気がする。ゆがんだ話になってしまう。人を集めるため
にあれやろうこれやろうとなってしまう。さっきの人口 12000 人のまちの中でそれ
を前提にこんなまちづくりをしたいという視点はあっても良い。人を呼ぶために何かを
やるんじゃないで、少ないなら少ないで、美祢市が子どもたちが帰ってくる、子どもた
ちの声がするまちにするというのも大事な視点かなと思う。

こういうキーワードで出すなら少し文章見直した方が良いかもしれない。これで将来像
が思い浮かべられればそれでよいかと思う。人口が減った中でみんなが生き生きと楽し
く過ごせるようなまちにしなければいけない。できれば若い人がいる。若い人の声がし
て、美祢の高校にみんないってもらって、山口大学にもたくさんきてもらってという
イメージ。

委員 地域づくりワークショップされたときにみなさん夢を語られたんじゃないかなと思う。
そのことがここに、まとめるのは市でまとめられるだろうが、こんなまちになりたいな
ど書いてあると思う。それがここに出てきているのならわかるが。

委員 昔でいう花と化石のまち美祢とかっていうのあったと思う。若者が定住できる、自然と
住める秋吉台のまちとかなんか、分かりやすい方がいいのかなと。

委員 そうしないとみんな腑に落ちないのではないかな。

会長 実現するにはお金もいるだろうし人もいるだろうし課題はあるけど、それに向かってみ
なさん知恵を働きますよねっていう。それが地域活動であったりいろんなものであつた
りしますけど。決してこのキャッチフレーズに繋がらないわけじゃないと思うが、人口
減少ってみんな同じことっていう。美祢市らしさ、美祢市の特徴があればいい。

委員 ワークショップも個別の意見の塊でまとめるのはすごく大変だと思うけど。それをうまく
将来像や構想としてまとめられれば、プロセスとして矛盾のないものになると思う。

委員 誰も異論はないと思う。

会長 そもそもこの総合計画は誰が誰に対して作るものかっていうのがどうも私自身もやっ
としていて、市役所がつくるものではないということだけは確かだと思う。だから市民全
体がつくるなら市民が納得できるプロセスを経て、納得するようなものが出てくれ
ばそうだよっていう。市民が我々が作ったんだというのが大事、市役所のお仕着せでは
いけない。

事務局 この個別の文章は今後見直す機会はあるかと思うが、カッコの中にある言葉は 8

月5日の審議会に全員一致でご承認いただきたいので、幹事会で賛同いただけるか決めていただきたい。

委員 この将来像のカッコ書きは良いが、中身は仕事を作って、若者を集めて子供を増やしてといった表現になっている。下関が合併する際に豊田町の町長と一晩中議論したことがある。小さくても和やかな町にしたいと話していた。逆に言えば12,000人の小さなまちでも良いので、どういうまちにするのかっていうのが将来像だと思う。

委員 減っても活気があるまちってことですか。

委員 小さいながらもどうするのか。これだったらあくまでも人口を増やそう増やそうということしか考えていないように見える。悪いということではないが、現実としてどこも同じ行政は考えているのだから、美祢市は美祢市なりの独特なもの。わかりやすいものが良いと言ったが、観光と産業のまち美祢などでも。市民のみなさんと決めるならどの山に登るか。わかるものとして。難しいものを書かなくても。

委員 わたしもこのキャッチフレーズは良いと思う。要するにこの下の説明部分を変えてもらったらいいになるのではないか。

会長 見直してほしい。個別の話になると異論はあるかもわからない。私たちはどうするかという視点で見直してもらったらよい。美祢市民がどうするか。市役所が書く文章ではなくて。みなさんに理解してもらえないのではないか。

それでは2ページ目の基本理念はいかがか。

秋吉台が前面に出ているが。旧美祢市民のみなさんはどうか。ここまで思い切って書かれると一体感が生まれて良いと思うが。秋吉台が我がまちの資産だとなってくれたら良いのだが。これで行くってことはやっとなら美祢市のアイデンティティがまとめられるんだなと。施策としてはいろいろとやっていくがキャッチフレーズは必要。そういう意味では意味がある。こういう言葉で美祢市民が一致団結できるなら意味があるなと。よろしいですか。ここにある理念の説明文章と将来像の説明文章は違うんですね。

市役所の文章は「図りましょう」というならわかるが、「図ります」と言われると、じゃあやっとならという気になる。みんなで一緒にやろうというならわかる。市役所がやるわけではない。みんなでやるんだから。そういう表現がちよくちよく気になる。基本目標は変わってないんですね。

事務局 基本目標は順番が変わってないわけだが、この度わかりやすく、伝わりやすいようにということで、観光産業共創シティと置き換えたが、この順番で良いかというのをもう一度議論いただきたい。

会長 主旨はわかるが、将来像に向けてこれがなんだろうかっていうのがわかりづらいと思うが。問題は順番だろうか。

事務局 前回の内容であれば、この順番でもということがあったが、基本理念を変えたことで、基本目標の順がどうなのかということを確認いただきたい。

委員 若者、女性、地域が輝くっていうのは魅力の創出にかかっているのか。

事務局 かかっているという解釈はなかったが、若者、女性、地域が輝きっていうのは人口減少が進んでいく中でも一番市のエネルギーとして重要なことではなかろうかとして記載している。なにに関わって来るかと言われれば、協働のまちづくりにあたると思うし、魅力の創出、交流の拡大や市の宝となる人の育成といったところに関わってくる。

会長 将来像、基本理念、基本目標との関係は一言でいうとどんなものか。

将来像はこんなまちになりたい。そのために具体的にはどういうことを考えないといけないかが基本理念に書いてある。それを達成するにはどういう目標を立てればよいか基本目標であると。そういう流れでよいか。

事務局 この基本目標においては、将来像を達成するために10年間この考えで進めて行くというのが基本理念。基本理念の方針のもとに基本目標で基本理念を動かしていくというもの。

会長 将来像、基本理念をめざすために、大きな基本目標を5つ立てたということか。

事務局 前は総花的なものだったので、この順番でも問題なかったが、今回観光産業共創シティという言葉を出したので、それを動かすエンジンである5つの基本目標がこの順で良いのか議論いただきたい。

会長 項目は見直さずに順番を確認するのか。

事務局 順番を確認していただきたい。

会長 これだけだと、山口市でも宇部市でもどこでも使える目標。美祢市は美祢市独自で目標を立てたので一番上に安心安全のまちづくりとくるのがえっと思った。順番がメッセージとして伝わるかという意味では順番も重要なのかなと思う。

委員 そりゃキャッチフレーズからしたら、観光産業だろう。

委員 美祢は観光でやっていくんだと全市民は覚悟できるだろうか。そこに向かってやるというならそれで。観光っていうのは一義的には外の人に対してのもの。その結果中が潤うっていう部分はある。中が潤う手段。一義的には外の人に対してすることを市民が覚悟できるかということ。

会長 スイスは観光だけでしか生きていない。観光に関することはなんでもやっている。マッターホルンの真向かいでワイファイが使える。そのかわり世界遺産にはなっていない。全ての住人がそれで生きている。産業が成り立っている。そのぐらいの覚悟があるかどうか。

ヤフーの社長が山口大学に来られた時に、戦う相手を間違えるなど言っていた。秋吉台が戦うべきは京都や奈良ではなく、同じカルストや洞窟を武器にしている場所である。戦うというより参考にするということかもしれないが、腹をくくることが大事。第1次のときは観光交流拠点ということで非常によいキャッチフレーズだと思ったが、通過拠点になってしまった。ああいうキャッチフレーズが良いのかと思う。スイスがまさにそう。拠点になっている。その代わり2~3日泊まってくれる。

委員 基本理念とマッチさせるためには2を1番に持ってくる形がよいかと思う。

会長 教育とか人の育成はもっと上にきて良い気がする。

委員 市民が腹をくくるという意味では、一番しみわたっているのは個人的にはジオパークの部分。

委員 SDGsが根底にあるから良い。

委員 一般市民はあまり認識が、なじみがないのでは。

委員 公民館単位でジオの普及された時はずいぶん集まっていた。こういうことなんだという考えはみんなではないが、浸透しているのではないか。

会長 ある意味では市民運動。それによって市民の意識が変わる。地元を知ろう、地元を誇りに思う、人に語ろう。結果として人が来るという文化運動のようなもの。それがどこまで理解されているか。

委員 美祢市はそもそも桜が有名だから、そちらを打ち出していけばよいのではないか。

委員 それもジオのひとつですよね。

会長 ジオパークってSDGsの典型ですよ。それをどこまで市民が理解でているのか。子どもをつくるのも最大のSDGsだと思うが。すべてはSDGsに繋がっている。ジ

- オパークを中心に本当に腹くくれるのかどうか。みんなそれぞれ旧市町で温度差がある。
- 委員 僕ら世代はもういいなと思う。それで市も盛り上がっている。秋吉台と言えば美祢市っていうイメージもある。
- 委員 石炭の黒、石灰の白、銅の赤を結ぶのがジオパーク。意識がある方は共通で思っている。投資へのばらつきへの不平はよく聞くが、目指すべきとなると一番じっくりくるかなと思う。
- 委員 じゃあ他に何と言われるとわからない。
- 会長 秋吉台もそうだが、自然の素材としては超一級品。それを使いこなしていないだけ。来て見て感動すればいいやとなる。地元の人が稼ぐ気がない。住んでる人にはメリットがない。台湾の野柳はものすごい。土産物もたくさん出来ているしものすごい雇用も出来ている。すごいなと思った。
- 委員 水族館も出来ている。国定公園の中でも手すりとかつけている。美祢市はできないのかなと思う。
- 会長 完全に腹くくったのだと思う。その代わり必死。今回美祢市は最後のチャンスかもしれない。どこで腹をくくるか。
- 委員 審議会でもよく言われていたのが、どんなまちでもあてはまる計画でいくのか、これだっというものでいくのか、一回目から意見出していた。それを考えると順番というものおのずと決まって来るのではないかと思う。安心安全は我々の部会だったが、どのまちでも普遍的な望みなので、ベース部分で良いかと思う。
- 会長 挙げなければならないものではある。
- 委員 秋吉台の魅力を活かすということが一番書かれるのであれば、美祢市らしいって言えば、世界ジオパークのなんとかっていう言葉が入らないとおかしくないか。
- 会長 その通りだと思う。どんどん売れば良い。なぜラムサール条約を使わないのか。あのキーワードはすごいキーワード。日本で唯一登録されているといったものを使うべきだ。使いこなせていない。スポーツアクティビティの専門家がいて、秋吉台を使ったアクティビティを考えている。年間12、3℃の空間を使ってとか。活用するというところまでいっていない。もったいないとみんなが言う。
- 委員 昔自生のトリュフがでていた。
- 会長 本当の観光地は思いつくことありとあらゆることやっている。棚卸をやってみて本当にできることを徹底的に議論したのか。どこから来てどこに行くのかなど基本的なデータの分析が必要。
- 委員 行財政運営は10年前と同じ。同じ表現しかしていない。
- 事務局 言葉的にはそう。あまり変化がない市の基盤となるもの。
- 会長 なにか計画されるのか。山口市はエリアごとの総合支所をつくった。今までとなりが違うのかアピールするべき。同じ事やったら努力目標でおわる。全然変わったと思われるようにしないと目標立てる意味がない。
- 事務局 資産、施設の問題を公共施設の縮減、全国の3倍あるので、行財政運営の安定化を図るというのが大きなテーマ。半分は第三次行政改革大綱を作っており、これに基づいて、可能な限り財源圧縮するとともに新たな財源を稼いでくる。それと協働のまちづくりということで、広範囲な市の面積をICT、IoTを活用して住民サービスを落とさずに機能的に生活拠点を守っていくということと、都市拠点、地域拠点の整備を行うということが行財政運営の強化の主と考えている。

会長 もっと地域をつなぐということよりも、今後地域の構造も変わってくると思う。まずどこなのか、限られたお金を投資するので重要だと思う。行財政はその辺をどうするのか優先順位があると思う。同じことやってもしょうがない。全ては10年後のKPIをどうするか、どういう目標を立てるかだと思う。予算をどのくらい縮減できるか、職員を何人減らせるか。山口大学は11%教員を減らす、涙流しながらやっている。そのぐらいやらないと財政がもたない。そのぐら이의覚悟がないとかわらない。我々はこれを第一にしようという共通の認識を持つべきだ。市民全員が共通の認識を持つことが大事。市民感覚とずれているとなかなか受け入れられない。

委員 意見は意見としていったのであとは事務局で。

事務局 今のご審議を拝聴して、安心安心のまちづくりは重要ではあるが、市全体のベースであり、他市も同様に取り組む施策であるという解釈のもと、基本理念に定めた覚悟においては下げるべきと解釈した。現段階で事務局としては、2番、3番が観光産業共創シティに直結するというので、市の宝となる人の育成もそのままスライドで上げて、4番に安心安全を持ってくるのが皆様の意見だったかと思うが、いかがか。

会長 よろしいかと思う。

(4) 公民館単位のまちづくり市民ワークショップのとりまとめと反映方法について

～事務局から説明～

会長 なにか活かしたいと思うが、ご意見あるか。

委員 このワークショップに参加された人数は出てくるか。

事務局 市のホームページには掲載しており、資料には出しておらず申し訳ない。最終的には参考資料で写真と人数は出したいと考えている。

会長 年齢はどんなものか。

事務局 年齢も参加人数も各地区によって全然違う。

会長 若い人の意見なのか、年寄りの意見なのかによってだいぶ評価がわかるような気がする。

最初のアンケートもそうだった。子ども達はもう住みたくないといっている。年寄り住みたいと言っている。圧倒的に年寄りが多いので、それを踏まえてみるのか、若い人の意見も入っているのかが重要。
これはまとめられるのか。

事務局 意見一覧は参考資料で、まとめたものを地区づくりプロジェクトとして編纂したい。各地区16枚くるように。

会長 山口市でもキャッチフレーズを書いてももらったが全て同じだった。特徴を活かしたものを考えてほしい。いろんなキーワード入っているので結構面白いかなと思う。

委員 付ける場所としては事務局は総合戦略の末尾でとおっしゃったが、将来像の基礎とするのであれば場所が変わってくるがいかがか。

事務局 総合計画の基本的な枠組みとして序論があり、10年間を支える基本構想があり、5か年計画の基本計画と総合戦略というものがある。基本計画は5年間のまちづくりの基本的な計画の体系、柱をまとめたもの、総合戦略は地方創生に特化した人口減少対策をまとめたもの。公民館単位のまちづくりは人口減少と大きく関わっている。生活拠点単位のまちの機能をいかに維持していくかという項目であるので、基本計画よりは総合戦略の下に置く方がベターかという事務局の判断である。基本計画の末に持続可能な地域

づくりへの支援というところがあり、公民館単位の在り方を検討するとあるが、総合戦略においては、戦略方針3として、住み続けられる協働と個性豊かなまちづくりプロジェクトとしている。施策として公民館単位の生活圏の維持がある。地域の生活支援を中心に考えるというもの。2番はコミュニティビジネスなど産業、仕事の地域づくり。生活と仕事で分けている。ここの戦略方針に基づいて、最終ページに16地区のワークショップとりまとめを考えている。

委員 公民館単位ということでいけば、総合戦略の最後に結んだ方が良いだろうということか。

事務局 この部分の細分化としての意見としてまとめたい。

会長 各地域の意見としてのとりまとめなのか。

事務局 各地区の維持をするためのワークショップである。

会長 どこに活かすという約束をしたのか。

事務局 さきほど話したような形で伝えている。

今は赤郷をモデルとして地区づくりを推進しているが、それに次ぐ第二第三のベースとなるような資料としたい。

会長 それぞれの地域でいろいろ提案いただいたので、みなさんは次のアクションに移ることができるような状況にあるのか。彼らがやりたいといったことは尊重されるわけか。次の総合戦略の中で地域の活動として次の展開になるのか。でなければせっかく議論していただいた意味がない。

委員 要するにこれは小地区総合戦略という位置付けで良いのか。

事務局 そうである。

会長 それが機能し始めると地域でひとつの核ができるのではと。そういうことでよろしいか。

事務局 事務局としてはこのワークショップをある程度継続性を持たせないといけないと考えている。この地区づくりを市は継続的に続けていこうと思っている。

会長 ワークショップに出られた人が、提案したのがどこいったのということではなく、継続的に次のアクションにつなげるということが大事。せっかく議論して頂いたのでやりましょう、やっってくださいとつながらないと無駄になる。今モチベーションが上がっていると思うので、実行に移すところの調整なり仕組みを市で考えていく。予算があるのであればそれなりに考えてあげなければいけないと思う。であればさっきの位置付けでよろしいかと思う。

事務局 カラーページの部分に基本計画の施策、総合戦略の施策、ここでこの意見を吸い上げますという施策としてのとりまとめをして推進する。

会長 言いっぱなしじゃないのでやってねというのが大事。

事務局 市は地区づくりの市民の自発的な活動を促すという観点で支援をしてまいるという形。

委員 伊佐地区はちょっと違うのではないか。公民館で集まるとコミュニティセンターの人が集まらない。コミュニティセンターを持っているところは、公民館はあまり日頃使われない。独自の地域として取り組んでいる。公民館単位で集められたら来ていない。福祉計画も同じ。

会長 どのくらい的人数なのか、声の大きい人の意見がその総意のように受け取られないように。

今日は、よろしいか。

4 閉会